

【9】 学校法人自由学園 危機管理本部

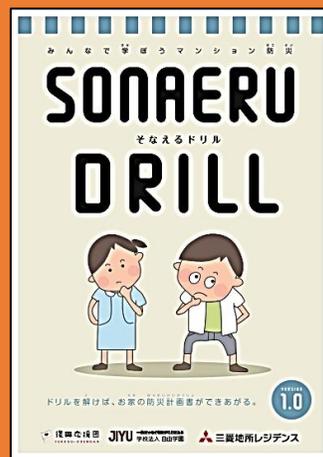
プラン名：「そなえるカルタ」で防災を学ぶ ～防災教育で企業と協働～

2018年度防災教育チャレンジプラン 活動報告会

2019.2.23



JIYU 一生につなぐ毎日がここにある
学校法人 自由学園



復興応援団 **JIYU** 学校法人 自由学園 三菱地所レジデンス



復興応援団 **JIYU** 学校法人 自由学園 COMMUNITY CROSSING JAPAN 三菱地所レジデンス

学習者が防災を“我が事化”する学習形態の模索

本校が考える“我が事化”の定義

- 学習した内容が個人の行動へと具体化されること

“我が事化”に必要な条件

- 学習した内容が自己イメージ（**共感**）へつながりやすいように
実際的な事例から学べる
- 他者の考え方を共有（**共感**）する学習過程がある
- 学習した内容がかたち（**共感**を自分のもの）として残せる

※「伝えた相手が自ら動くとき、そのベースには必ず共感があります。

そして共感が想像を生み、想像が自発につながる。」（「前刀禎明,心が動く伝え方,KADOKAWA」より）

アクティブラーニングで防災を学ぶ

※アクティブラーニングとは

『伝統的な教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称』

(「中央教育審議会,新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～,2012年」より)

- 共感が生まれやすい教材であること
- “学び合い”や“教え合い”といった活動があること
- 学習者間の相互作用を適切に支援する仕組みがあること
- 学習成果が手元に残ること

「そなえるカルタ」は、自社マンションの居住者へ向けた防災活動用として制作されていたことから、本校は、2015年9月に三菱地所レジデンス（株）との間で「業務提携に関する協定書」を取り交わし、活動の自由度を確保した上で、教材として導入した。

「そなえるカルタ」は、我が事化から行動につながっていくプロセスを考えながら工夫を凝らしました。

東北地方の団体や防災専門家と協力して被災地での実際の声を掲載。概念的なことより、トイレや水、食料など、実生活ですぐに困るような具体的なエピソードを中心にすることで、危機感を持ちやすく「我が事化」しやすくしています。

(三菱地所レジデンス (株))



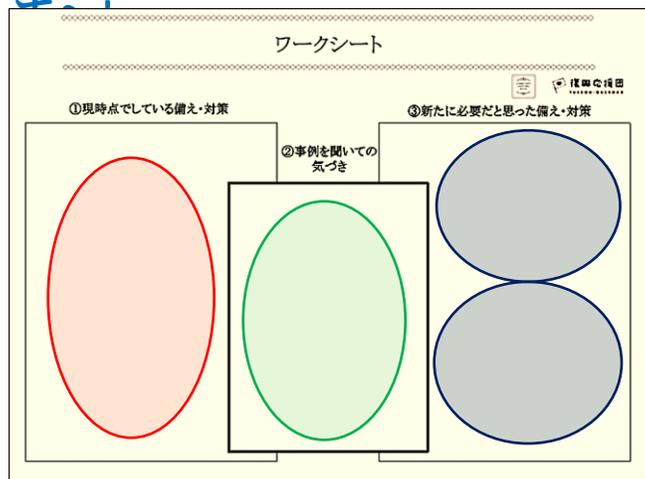
そなえるカルタ

「そなえるカルタ」の学習過程 = アクティブラーニング

「個人で取り組

「グループで共有す
る」

「全体で共有す
る」



被災地との“共感”

他者との“共感”①

他者との“共感”②

学習内容の確かな定着と共に
様々な“共感”が
「我が事化」にもつながる



講義 5%
(学習定着率)

読書 10%

視聴覚 20%

実演してもらおう 30%

グループ討議 50%

自ら体験する 75%

他の人に教える 90%



三菱地所レジデンス（株）防災倶楽部の
メンバーがファシリテーター役を務める



「そなえるカルタ」で
被災地のトイレ問題を学びながら
「そなえるドリル」で
“家族の防災計画書～トイレ編～”を作成した
生徒の例

(表面)

SONAERU KARUTA

11 トイレ

災害時でも我慢できないのがトイレ。

- 近隣に山や空き地がなく、限られた敷地に建つ都市部のマンション、排遺物処理についてルール化していないと、きつと大問題になります。
- マンホールトイレは、全住民で使うことは想定されていません。

被災地の声

断水のため自宅のトイレはしばらく使えず、家の周りの道端などで用をたいた。臭いにおぼあちはトイレが大事だったので何もできていなかった。

どの班が使うの？

生活班

いつ使うの？

被災生活期

Q水が使えずトイレが流せない時の対策、どうしますか？

SONAERU KARUTA

12 トイレ

災害時、トイレは使えなくなります。

- マンションは上下水道の配管が張り巡らされていますが、それらが破損しているとき水が流れずトイレは使えません。
- お風呂等の貯水を使って流すことも考えられますが、配水管が途中で破損していると、吹き出す危険があります。

被災地の声

一番大変だったのはトイレ。風呂トイレを用意していたが、ゴミで出さなければならなかった。

どの班が使うの？

生活班

いつ使うの？

被災生活期

Q災害時のトイレのノウハウ、知っていますか？

SONAERU KARUTA

13 トイレ

トイレの不衛生が感染症の原因に。

- 衛生環境が悪化すると、インフルエンザやノロウイルスなどの感染症が多発するおそれがあります。
- 東日本大震災では、避難所のトイレの清掃・衛生環境の保持が大きな問題となりました。

被災地の声

避難者から視察されたリーダーが班を分けて当番制でトイレ掃除を行った。班分けするとやらせを得ない習慣になり、反戻する人はいなかった。

どの班が使うの？

生活班

いつ使うの？

被災生活期

Q共用部のマンホールトイレの管理は、どうしますか？

(裏面)

SONAERU KARUTA

11 トイレ

水を使わないトイレの備えを。

- トイレは基本的に自宅で準備してもらい、汚物は当面自宅で管理というルールをつくりましょう。
- 共用部のマンホールトイレは、自宅でトイレの準備をすることが困難な方や災害対策本部で活動する方専用とするなど運用上のルールが必要です。

被災地の声

災害時のトイレ管理の手順

生活班

被災生活期

Q水が使えずトイレが流せない時の対策、どうしますか？

SONAERU KARUTA

12 トイレ

自宅にあるものでトイレを作ろう。

- 「非常用簡易トイレ」や「非常用トイレ袋」を用意しておきましょう。
- バケツ、新聞紙、ペットシート、大人用の尿もれパッド、ごみ袋などで自宅内にトイレを作りましょう。
- 排泄物を外部に捨てられるようになるまで、自宅内で管理します。

どの班が使うの？

生活班

いつ使うの？

被災生活期

Q災害時のトイレのノウハウ、知っていますか？

SONAERU KARUTA

13 トイレ

清掃当番のルール化でトイレをきれいに保とう。

- マンション内に設置する共用のトイレは、率先して清掃を行う、当番制にするなど、住民同士で自発的に取り組んでいきましょう。
- 共用部のトイレも活用しましょう。どういった状況で活用して汚物を捨てるようにするか。

被災地の声

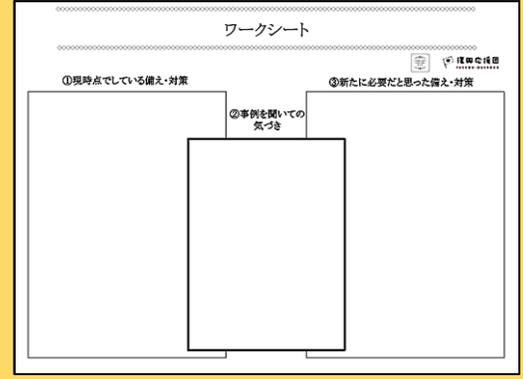
避難所でのトイレ使いかたスター マンホールトイレ

どの班が使うの？

生活班

いつ使うの？

被災生活期



みんなで学ぼうマンション防災

SONAERU DRILL

そなえるドリル

ドリルを解けば、キミのお家の防災計画書ができる!

VER.1.0

復興の仲間 JIYU 学校法人 三陸地所レジデンス

1時間自理科

トイレ

問題

宇宙人が世界じゅうのトイレを持ち去ってしまった! キミならどうする!?

宇宙、空いっばいに空飛ぶ宇宙人が、ちきちきのトイレをすくく集めて入っています。世界じゅうのトイレを持って行ってしまった、キミならどうする?

1 公園の木かけてひそかにする

2 近くの川まで持ってひそかにする

3 近くでつる材料で、おしっこやうんこを隠してやる

キミの回答は ()

正解は (4)

解説) トイレをまさんしたらほうこうや感染症、食中毒や水分がまんしたら大変な事や排水状況になってしまふかも。ほかの手段を考えたほうがいい。

2時間自理科

トイレ

問題

大地震でトイレが使えない! どうする?

大地震などの災害では、トイレが使えなくなる可能性が高いから、あらかじめ準備しておくといい。準備しておくといい。準備しておくといい。

1 7日何回?

1日のトイレの回数

キミの回答は ()

正解は (4)

解説) トイレをまさんしたらほうこうや感染症、食中毒や水分がまんしたら大変な事や排水状況になってしまふかも。ほかの手段を考えたほうがいい。

3時間算数

トイレ

問題

1日、何回トイレに行ってる?

大きな災害のとき、仮設トイレもすぐには来ません。そこで必要になってくる非常用トイレや貯める材料はどれだけ準備した方がいいのかな? または、キミが1日何回トイレに行ってるかを考えてみよう!

1日のトイレの回数

次は、例えば1週間トイレが使えない場合の、家族みんなのトイレの回数を計算してみよう!

家族の防災計画書

トイレ

家族の1週間のトイレ回数

名前	性別	1日の回数	1週間の回数
お父さん	男	7	7 × 7 = 49
お母さん	女	7	7 × 7 = 49
お兄さん	男	7	7 × 7 = 49
お姉さん	女	7	7 × 7 = 49
お弟さん	男	7	7 × 7 = 49
お妹さん	女	7	7 × 7 = 49
合計			

非常用トイレ・凝固剤の総数は () 個

汚物を自宅内のここに保管する。

お風呂場の浴槽内

解説) 非常用トイレ・凝固剤(貯める材料)を、計算に基づいて各家庭で必要だけ準備しましょう。そして、災害時にはいつものトイレを使わず、非常用トイレで汚物を保管して貯めて保管します。災害時にはゴミ収集も停止するのでマンションのゴミ捨て場に持っていくのは避けましょう。自宅内のどこに置くか、保管場所もあらかじめ決めておきましょう。

「個人で取り組む」 → 「グループで共有する」 → 「気づきを個人へ戻す」 → 「全体で共有する」

テーマ トイレ ワークシート 氏名

①現時点でしている備え・対策 ②事例を聞いての気づき ③新たに必要だと思った備え・対策

（個人の）現状の振り返り

「そなえるカルタ」を見た後に気づいたこと

グループでの共有で気づき・考えたこと

全体での共有で気づき・考えたこと

学習の流れの中で気づきなどが増えてゆく様子が分かる

家族の防災計画書

家族の1週間のトイレ回数

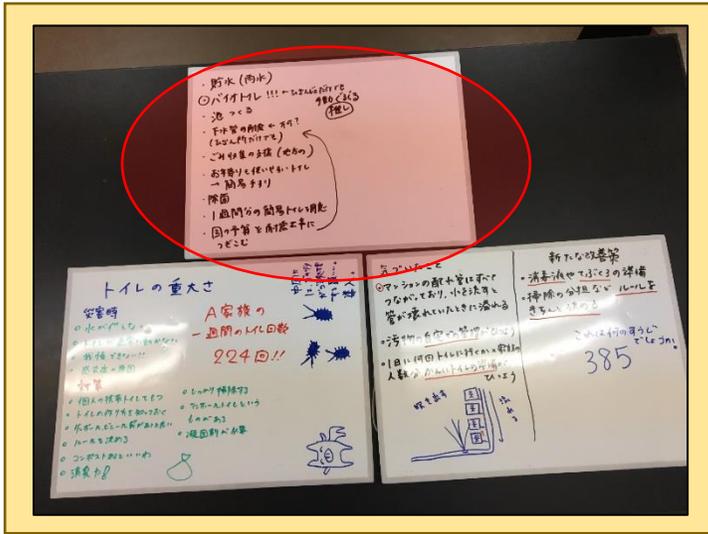
だれ	1日の回数	1週間の回数	非常用トイレ・凝固剤の数
おぼく・わたし	10	×7日間 = 70	= 70
父	7	×7日間 = 49	= 49
母	10	×7日間 = 70	= 70
兄	7	×7日間 = 49	= 49
姉	7	×7日間 = 49	= 49
妹	7	×7日間 = 49	= 49
合計		385	385

そなえる 非常用トイレ・凝固剤の総数は **385** 個

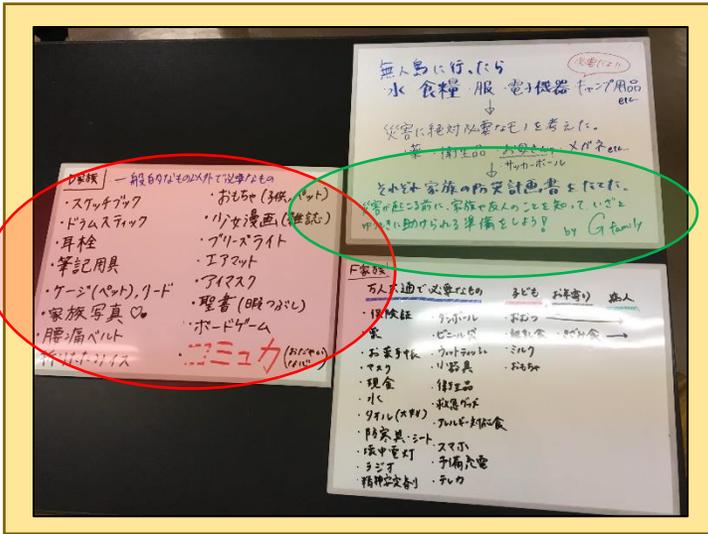
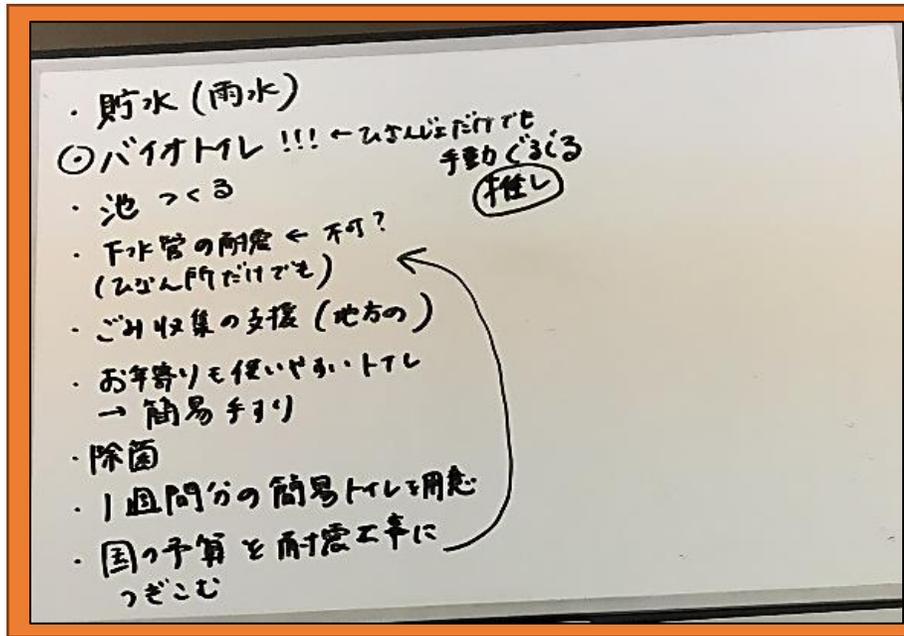
使ったあとに 汚物を自宅内のここに保管する。
 即ちお風呂場の浴槽内 or 裏庭に大きいゴミ箱を用意する（家より？）

お風呂の浴槽内 or 裏庭に大きいゴミ箱を用意する（家より？）

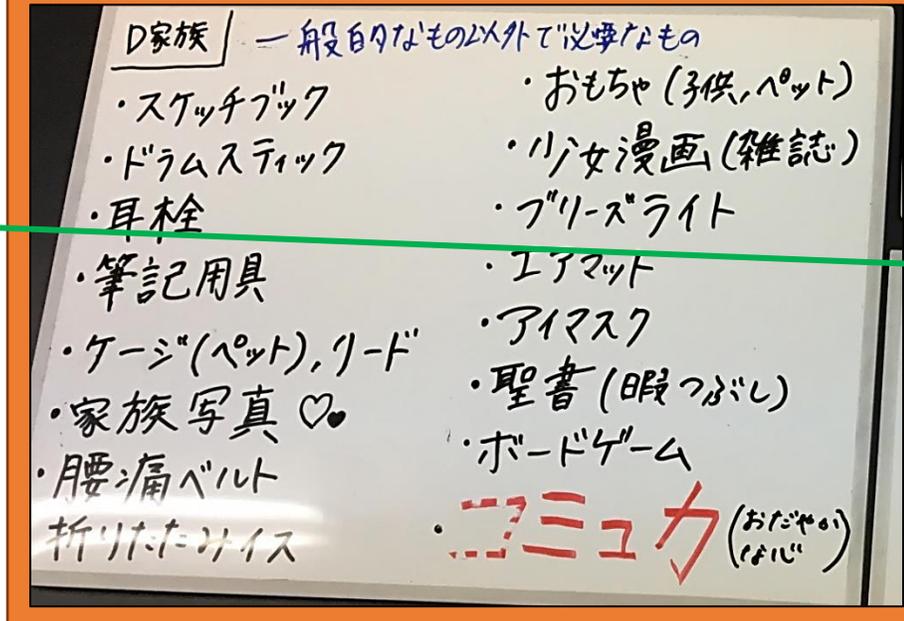
全体での共有



トイレグループ



物資グループ



災害が起こる前に
 家族や友人のことを
 知って
 いざという時に
 助けられる準備を
 しよう

学習者の防災意識の変化を調査

- 「そなえるカルタ」と「そなえるドリル」を使った学習効果を定量的に把握するために、「防災意識尺度（防災科学技術研究所）」を用いてアンケート調査を実施し、この学習前後で学習者の防災意識がどのように変化したのかを分析した

防災意識尺度 ver20180115D

以下の文章はあなた自身の考えにどのぐらい当てはまりますか？
右の選択肢から最も近いものを選んで数字に○をつけてください

	あてはまらな	あてはま	ほとんどあ	あてはま	あてはま	かなりあ	あてはま
1 災害発生時に人々がどのような行動を取るかの具体的なイメージがある	1	2	3	4	5	6	
2 自分の利益にならないことはやりたくない	1	2	3	4	5	6	
3 災害発生時に必要となる言葉の具体的なイメージがある	1	2	3	4	5	6	
4 色々な友達とたくさんつくりたい	1	2	3	4	5	6	
5 災害発生時に町がどうなるかの具体的なイメージがある	1	2	3	4	5	6	
6 ひとたび災害が起きたら大変なことになると思う	1	2	3	4	5	6	
7 自分は心配性だと思う	1	2	3	4	5	6	
8 不安を感じることが多い	1	2	3	4	5	6	
9 自分の身近なところで起きそうなことだけ考える	1	2	3	4	5	6	
10 災害のことを考え始めると、様々なパターンの被害を想像してしまう	1	2	3	4	5	6	
11 普段は災害のことは考えない	1	2	3	4	5	6	
12 災害は明日来てもおかしくない	1	2	3	4	5	6	
13 個人の努力だけで災害の被害を減らすことは難しいと思う	1	2	3	4	5	6	
14 身の周りの危険をいつも気にしている	1	2	3	4	5	6	
15 災害対策は防犯訓練や防災地の確保など物理的なものだけで十分だと思う	1	2	3	4	5	6	
16 人とコミュニケーションを取るのが好きだ	1	2	3	4	5	6	
17 防災は自分の地域だけで完結するのではなく他の地域との連携も必要だと思う	1	2	3	4	5	6	
18 人が集まる場所が好きだ	1	2	3	4	5	6	
19 災害発生時に自分がどのような対応をすればよいか具体的なイメージがある	1	2	3	4	5	6	
20 他の人のために何かしたいと思う	1	2	3	4	5	6	

○をつけた数字を口に入れて記入して下さい
記入したら縦方向に合計して下さい
Dスコア・総合点を式に従って計算し、
計算が終わったら裏返して下さい

記入が終わったら開いて下さい

Aスコア Bスコア Cスコア Dスコア Eスコア 総合点

28 - =

A + B + C + D + E =

「防災意識尺度」は、皆さまの防災意識が平均的な人に比べてどの程度かを定量的に測る「モノサシ」として、防災科研の島崎敦と東京国際大学の尾関美喜が共同開発したものです
どなたでも自由にご利用いただけますが、利用実績把握のためにご一報いただけますと幸いです
問い合わせ・感想などは（国研）防災科学技術研究所 社会防災システム研究部門 risk_office@マークbosai.go.jpまで
関連文献：Ozeki, M., Shimazaki, K. & Yi, T. 2017, Exploring elements of Anti-disaster Consciousness: Based on interviews with Anti-disaster Professionals, Journal of Disaster Research, 12(3), 631-648.
島崎敦・尾関美喜 2017/9 防災意識尺度の作成(1), 日本心理学会第81回大会発表論文集, 69.

測ってみよう
あなたの「防災意識」

記入が終わったら開いて下さい

この用紙はダウンロードもできます

防災意識尺度 検索

表面のスコアを見て○をつけてみよう

期間をおいて変化も見てみよう

名前 _____ 記入日 _____ 年 _____ 月 _____ 日

低い 偏差値 高い

A 被災状況の想像力
B 災害の危機感
C 他者指向性
D 災害に対する関心
E 不安
総合点

行：行状調査平均値
全：全調査平均値
学：学生平均値
リ：防災リーダー平均値(2017/2時点)
標：熊本地震被災者平均値

下から0.1% 下から2.3% 下から15.9% 平均値 上から15.9% 上から2.3% 上から0.1%

MARCH級 平型上管級 東大理工級

A:被災状況に対する想像力
災害が起きたらどんなことが起きるか、何が必要か、何をやるかを想像する力です。これが低い人は、災害のことを調べる、被災者の様子を聞くなどして災害を知り、想像力を養いましょう

B:災害に対する危機感
災害をどのくらい深刻に捉えているか、現状ではまずいと思っているかを表しています。これが低い人は、災害は明日来てもおかしくないことを再認識し危機感を持ちましょう

C:他者指向性
社会や人のために何かをしようと思うことです。災害は地域の人やみんなが協力しなければ乗り切れません。これが低い人は救助の大切さを再認識し、他人のことも考えるようにしましょう

D:災害に対する関心
災害に興味を持ち、災害を自分のこととして捉えている程度です。これが低い人は災害に関心です。まずは災害を自分の問題として捉え、防災のために自分が何をやるかを考えましょう

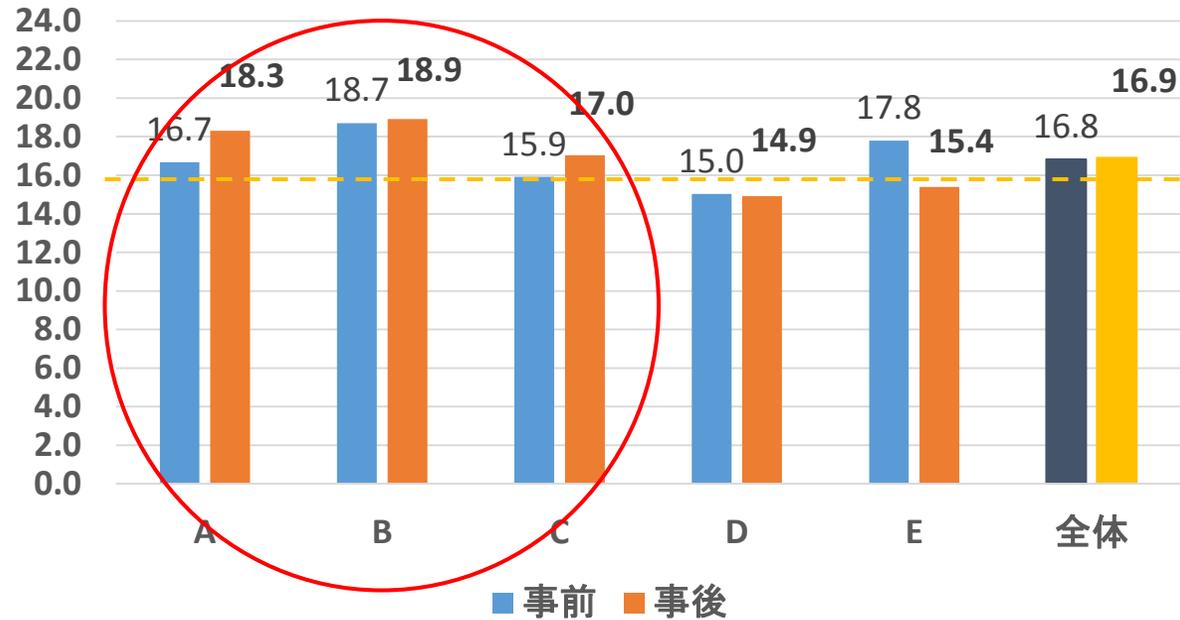
E:不安
災害のことを心配している度合いです。不安は災害に対する備えの原動力にもなりますが、A-Dと違って、高すぎてもよくないことに注意が必要です。過度な心配を心がけましょう

総合点
あなたの「防災意識」の全体的な水準を表しています。自分の防災意識が他の人と比べて高いか低いかわかり、低かった人は今よりも災害や防災のことを考えてみる機会を増やしましょう

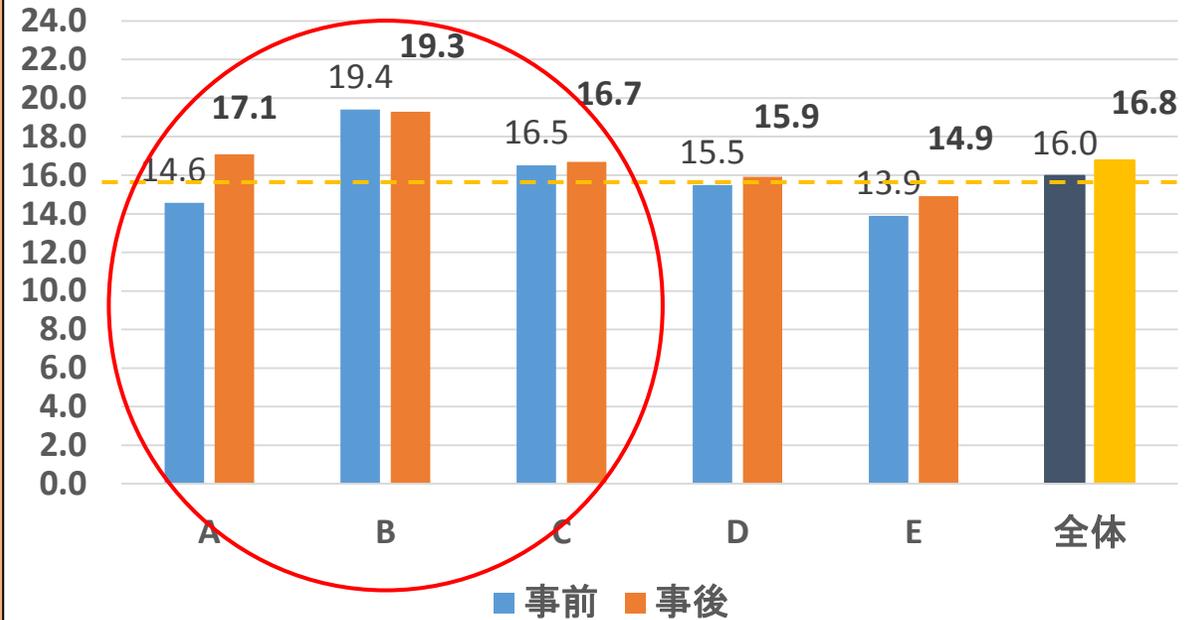
偏差値は、平均値を50、標準偏差を10に設定した値です。例えば、偏差値60とは平均よりも標準偏差1つ高い値であることを示しています。この偏差値は全調査の無作為抽出した618名分の偏差値の平均値と標準偏差から算出されています

学習前後での防災意識の変化 (各項目の平均得点)

男子部高等科3年生 (n=33)



女子部高等科3年生 (n=35)



- ・ A 「被災状況に対する想像力」 - 災害が起きたらどんなことが起きるか、何が必要か、何をするかを想像する力
- ・ B 「災害に対する危機感」 - 災害をどのくらい深刻に捉えているか、現状ではまずいと思っているかを表す
- ・ C 「他者志向」 - 社会や人のために何かをしようと思う心
- ・ D 「災害に対する関心」 - 災害に興味を持ち、災害を自分のこととして捉える程度
- ・ E 「不安」 - 災害のことを心配する度合い

学習前後での防災意識の変化 (各項目のt検定)

男子部高等科3年(n=33)

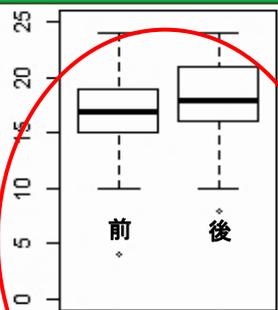
女子部高等科3年(n=35)

災害が起きたらどんなことが起きるか、何が必要か、何をするかを想像する力

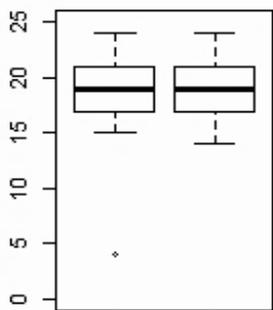
社会や人のために何かをしようと思う心

災害が起きたらどんなことが起きるか、何が必要か、何をするかを想像する力

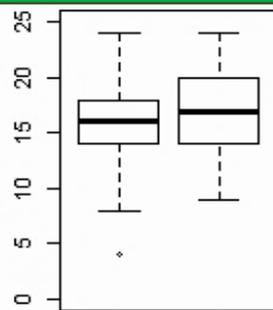
災害のことを心配している度合い



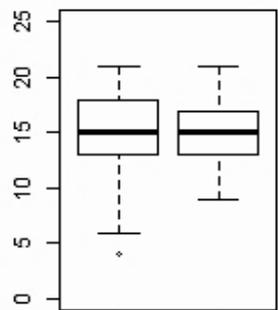
A被災状況に対する想像力
(P=0.007)



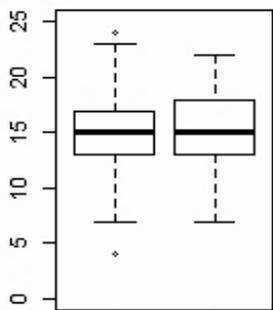
B災害に対する危機感
(P=0.700)



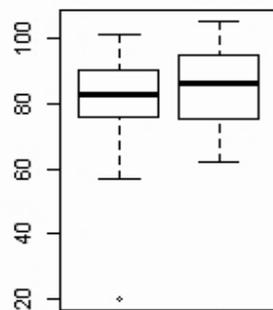
C他者志向性
(P=0.019)



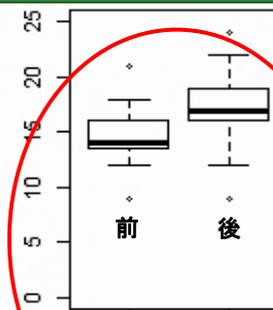
D災害に対する関心
(P=0.870)



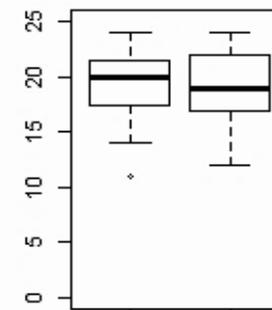
E不安
(P=0.318)



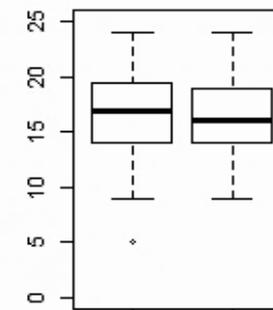
総合点
(P=0.096)



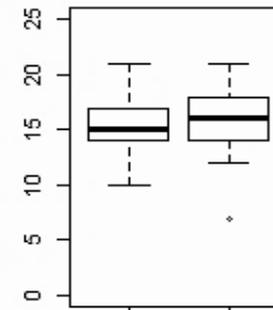
A被災状況に対する想像力
(P=5.139e-05)



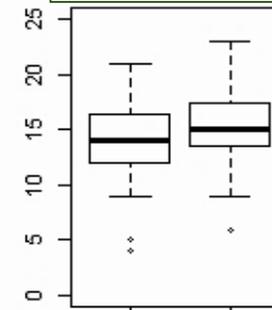
B災害に対する危機感
(P=0.850)



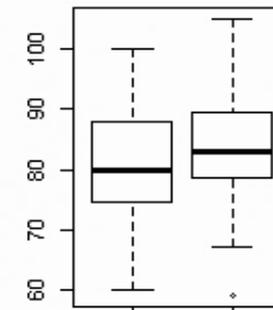
C他者志向性
(P=0.735)



D災害に対する関心
(P=0.384)



E不安
(P=0.064)



総合点
(P=0.003)

学習前後での防災意識の変化 (各項目間の相関関係)

男子部高等科3年(n=33)

<事前>

<事後>

	A	B	C	D	E
	被災状況に対する想像力	災害に対する危機感	他者志向	災害に対する関心	不安
A	-	0.645	0.485	0.430	0.427
B	0.645	-	0.470	0.555	0.471
C	0.485	0.470	-	0.467	0.298
D	0.430	0.555	0.467	-	0.421
E	0.427	0.471	0.298	0.421	-

	A	B	C	D	E
	被災状況に対する想像力	災害に対する危機感	他者志向	災害に対する関心	不安
A	-	0.546	0.508	0.121	0.280
B	0.546	-	0.522	0.336	0.363
C	0.508	0.522	-	0.350	0.124
D	0.121	0.336	0.350	-	0.012
E	0.280	0.363	0.124	0.012	-

女子部高等科3年(n=35)

<事後>

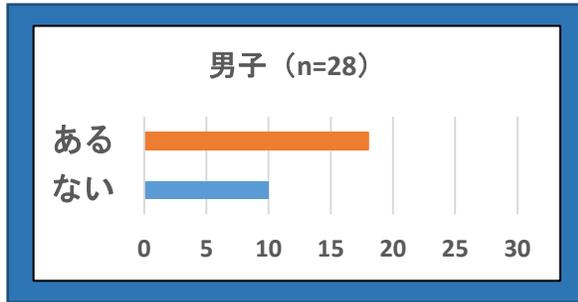
<事後>

	A	B	C	D	E
	被災状況に対する想像力	災害に対する危機感	他者志向	災害に対する関心	不安
A	-	0.132	-0.013	0.186	0.113
B	0.132	-	0.397	0.358	0.224
C	-0.013	0.397	-	0.338	0.058
D	0.186	0.358	0.338	-	0.110
E	0.113	0.224	0.058	0.110	-

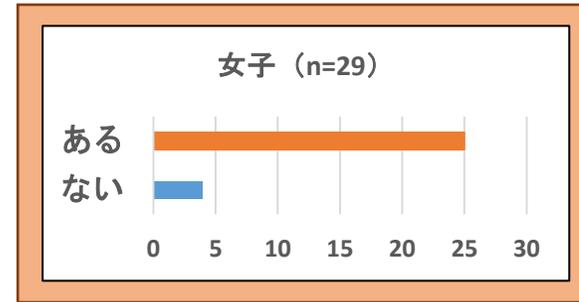
	A	B	C	D	E
	被災状況に対する想像力	災害に対する危機感	他者志向	災害に対する関心	不安
A	-	0.234	0.210	-0.021	0.362
B	0.234	-	0.311	0.098	0.177
C	0.210	0.311	-	0.209	0.335
D	-0.012	0.098	0.209	-	0.039
E	0.362	0.177	0.335	0.039	-

学習後にどのような“我が事化”につながったか

・ Q1：防災学習以前に行っていた個人的な“災害への備え”があれば教えてください

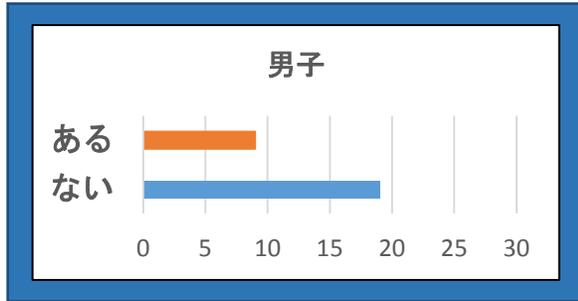


- 【ある (n=18)】
- ・非常持ち出し袋(寮生) 13
 - ・携行用の防災セット 2
 - ・その他 3

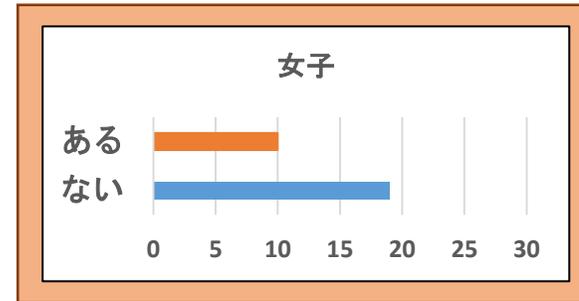


- 【ある (n=25)】
- ・非常持ち出し袋(寮生) 13
 - ・非常持ち出し袋(通学生) 4
 - ・家庭で防災備蓄品の準備 6
 - ・その他 2

・ Q2：防災学習後から行った個人的な“災害への備え”があれば教えてください



- 【ある (n=9)】
- ・非常持ち出し袋の見直し(寮生) 5
 - ・室内履きを替えた(寮生) 2
 - ※Q1では「ない」と回答した
 - ・その他 2
- 【ない (n=19)】
- ・非常持ち出し袋で充分 3
 - ・特に意識しなかった 8
 - ・無回答 8

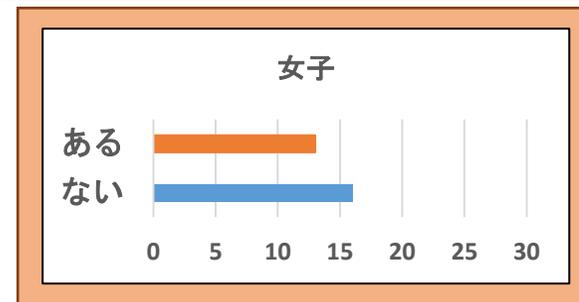


- 【ある (n=10)】
- ・非常持ち出し袋の見直し(寮生) 4
 - ・家庭で防災備蓄品の準備(通学生) 3
 - ・その他 3
- 【ない (n=19)】
- ・非常持ち出し袋で充分 5
 - ・特に意識しなかった 4
 - ・その他 5
 - ・無回答 5

・ Q3：その他防災学習後に行った“災害への備え”があれば教えてください



- 【ある (n=3)】
- ・災害発生時の自分の動きを考えた 2
 - ・家族で災害発生時ことを考えた 1



- 【ある (n=13)】
- ・家族で災害発生時ことを考えた 10
 - ※この内2名はQ1で「ない」と回答
 - ・家庭で防災備蓄品の準備 2
 - ・その他 1

三菱地所レジデンス（株）からみた協働の意義

- ・ 人それぞれ「やらない理由」は様々
- ・ 様々な理由を踏まえた“刺さる伝え方”を編み出す
- ・ 相手の考えに合わせた伝え方をする

本校との
協働の中で
再確認

“居住者一人ひとりが自ら備えること”を
目指す

そのスイッチを入れる一つの方法として
「そなえるドリル」を制作



マンションを供給する三菱地所レジデンス（企業）は、
居住者の安心・安全のため

↓

防災に取り組む

↓

“居住者一人ひとりが自ら備える”ことを
ゴールにする

■マンション防災に取り組む企業の悩みと想い

1. “やる人”と“やらない人”が二極化
⇒一人ひとりが行動に移すように働きかけたい
2. 災害時、中高生に活躍してほしい
⇒被災地では「中高生が活躍」したと聞くが、
マンション防災に中高生が関わる機会が少なく、
伝えたいけど伝えられていない。
また、どう伝えれば効果的かも分からない。

1. “やる人”と“やらない人”が二極化

↑
この理由を知らないと効果的に伝えず、
自ら備える人を増やすことが出来ない

防災は大事だという認識は皆がある

↓

なのに

取り組む理由

- ✓ 守る家族がいるから
- ✓ 危機感を感じたから
- ✓ 身近に震災を経験した人がいるから

取り組まない理由

- ✓ 自分は何とかなる
- ✓ 大人が助けてくれる
- ✓ 大変だとは思っているが、時間がない

取り組む人・取り組まない人と考えが二極化し、
それぞれ考え方が異なる。
この理由を知らないと効果的に伝えられない

2. 災害時、中高生に活躍してほしい

東日本大震災での事例～中高生が活躍～

思いも寄らなかった力が、
かけがえのない助けになりました。

中学生（当時） 左から、菊池 亜紀さん、
村上 彩乃さん、大谷 逸稀さん

大谷さん「震災の日の夜は山火事の延焼を防ぐため
可燃物を山から運ばれました。翌日からは船やヘリ
で届いた物資を島内に届ける作業をしました。動ける
男はみんなやりました。村上さん菊池さん、女子は
みんな避難所でおにぎりを握って配りました。」

互励共進・
物資輸送・
炊き出し

■自由学園防災学習（ワークショップ）での気づき

チームで、自分たちに何ができるか考えてもらう

ブルーシートとナイフが
あれば色々使える！

英語の教科書に載っ
ていた道具を使って
水を運べるかも！

↓

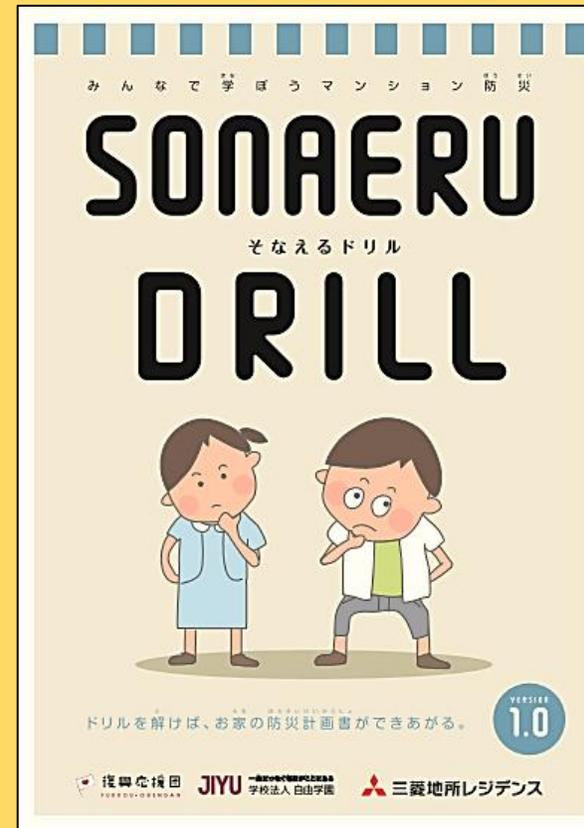
大人では想像のつかない
アイデアが生まれる！

↓

高校生は“備えが必要だ”と感じたら、
アイデアを自ら生み出す力があることが
分かった。

「そなえるカルタ」・「そなえるドリル」は ダウンロードフリーでどなたでもご利用になれます

(三菱地所レジデンス (株) : DONATA DEMO PROJECT)



より多くの方々のお役に立てれば幸いです



最高学部（大学部）



女子部中等科・高等科



男子部中等科・高等科

1921年に羽仁吉一・もと子によって創立されたキリスト教主義の学校



初等部（小学校）



幼児生活団（幼稚園）

最高学部（大学部）	109名
女子部	236名
男子部	198名
初等部	173名
幼児生活団（幼稚園）	84名
合計	800名

〒203-8521

東京都東久留米市学園町1-8-15

生活即教育

自労自治

“その日の自分たちの生活は自分たちが動かす”



寮生の朝食は自炊（昼食作りでは薪でご飯を炊くことも）



時間の管理も自分たちの仕事



避難訓練（点呼・人数確認は生徒の委員の仕事）



簡単な修理も自分たちの仕事



トイレ掃除も自分たちの仕事



芝生の手入れも自分たちの仕事



毎年夏休みには延べ150名ほどがボランティア活動に参加



高等科3年生による十三浜復興支援は今も継続中



「暮らしの係」が会議中



学年縦割りの委員会組織（係）で学校生活を運営



植林地での共同生活



登山行事での山小屋生活（燕岳/燕山荘）



有志による復興支援（左/熊本地震、右/西日本豪雨）



「指定緊急避難場所」 / 「指定避難場所」

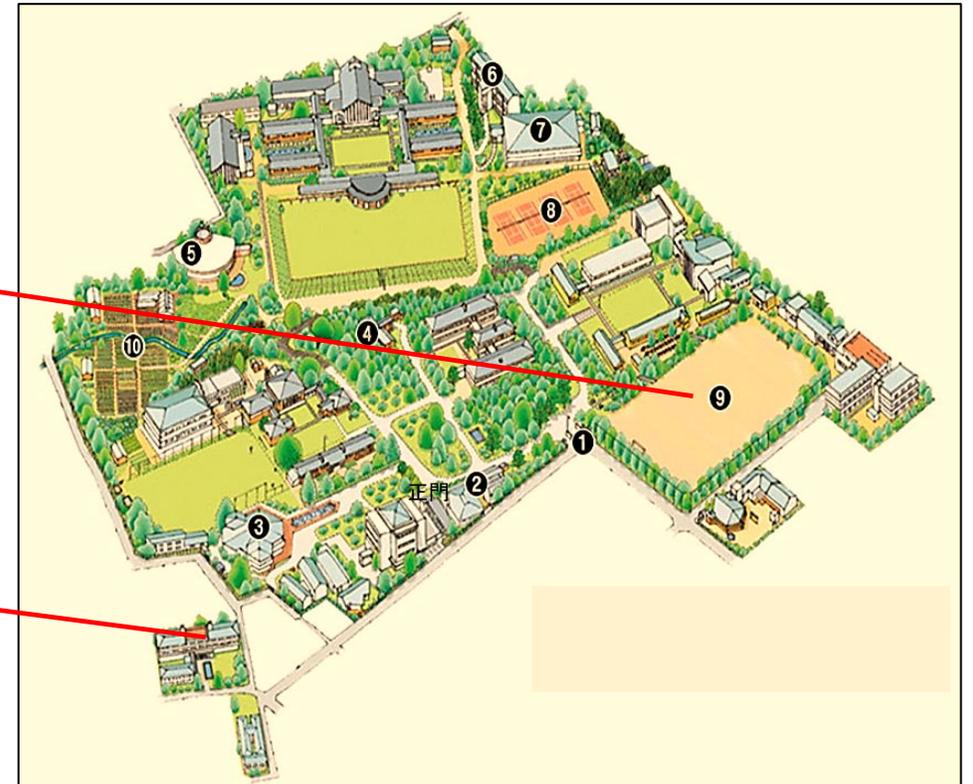
平成20年12月に東久留米市との間で
「災害時の施設利用に関する協定」を締結



- 「指定緊急避難場所」 男子部グラウンド



- 「指定避難場所」 しののめ茶寮



3,638世帯／7,472人

(平成31年1月1日時点)
(外国人居住者を含む)



避難者受け入れ対象自治会

- ・ 落合自治会 (一部)
- ・ 栗原睦会
- ・ 学園町自治会
- ・ 浅間町自治会 (一部)
- ・ 立野川自治会
- ・ 松ヶ丘自治会
- ・ 南沢緑台自治会
- ・ 南沢自治会 (一部)

◆避難者受け入れ対象地域◆

- ・ 学園町一丁目・学園町二丁目
- ・ 浅間町三丁目・南沢一丁目

※小さな自治会では継続した防災の取り組みは難しい
※大きな自治会の一部地域だけが入っている自治会の動向も読めない
※白地図地域や集合住宅の居住者、自治会未加入者等との連携は更に難しい

本校による地域への働きかけ



しののめ茶寮 避難所運営連絡会
(2014～2016年)

◆「避難所運営連絡会」開催の目的◆

- ・ 関係自治会との顔合わせ
- ・ 各自治会の防災体制の共有
- ・ 本校の学校運営体制の説明
- ・ 災害時の本校の受け入れ態勢の説明

現在は組織力のある学園町自治会および松ヶ丘自治会との連携で地域防災力向上を模索



「キリスト教会防災ネットワーク新座・東久留米・清瀬」との協働で

防災コースを開催（2017年～2019年）

テーマ：「見て」「知って」「触れて」「納得してもらう」
狙い：個人および地域としての「防災の“我が事化”」へ

◆「防災フェスタ」開催の目的◆

- ・ 避難所である本校を認知してもらう
- ・ 「自助」や「共助」に繋がる経験を積んでもらう
- ・ 防災用品などを身近に感じてもらう
- ・ 自宅の防災対策の具体的なイメージを作ってもらう



協力企業による
防災用品の展示ブース

ご清聴ありがとうございました